

第32回泌尿器科漢方研究会学術集会

代表幹事:堀江重郎(順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学)

日時:2015年6月20日(土) 13:00~18:05

会場:コクヨホール(東京都)

前立腺がん放射線治療における 急性尿路障害に対する牛車腎気丸の効果

JCHO東京新宿メディカルセンター 放射線治療科¹⁾、泌尿器科²⁾
○黒崎 弘正¹⁾、赤倉 功一郎²⁾、塩見 誉²⁾
松崎 香奈子²⁾、夏山 隆夫²⁾

【緒言】前立腺がんに対する放射線治療の有効性については言うまでもないが、その期間中に尿路障害は80%に認められるとされる。頻尿・尿勢低下・排尿時痛などが代表的な症状であるが、これらは可逆的とされ、ガイドラインや成書においてもその対処方法は書かれていない。

【対象と方法】JCHO東京新宿メディカルセンターで2014年4月から9月までに前立腺がんに対する根治照射中に急性尿路障害に対して牛車腎気丸1回2.5g食前、1日3回投薬を行った5例について検討を行った。5例のうち4例は根治照射で70Gy/35回/7週間、1例については救済照射で66Gy/33回/6.5週間の放射線治療が行われた。

検討項目は夜間排尿回数・IPSS (国際前立腺症状スコア)・QOL (困窮度スコア)・OABSS (過活動膀胱症状質問票)を用いて、1. 照射開始前 2. 牛車腎気丸投与前 3. 牛車腎気丸投与後1週間 4. 放射線照射終了時 で検討を行った。

【結果】牛車腎気丸は18Gy/9回目～42Gy/21回目(中央値24Gy/12回目)の時点で開始されていた。牛車腎気丸投与後1週間で夜間排尿回数は平均4.2回から3.2回と減少していた(1. 照射開始前2.6回⇒2. 牛車腎気丸投与前4.2回⇒3. 牛車腎気丸投与後1週間3.2回⇒4. 放射線照射終了時3.0回)。IPSSについては投与後1週間後には低下を示しており、照射終了時もほぼ同様であった(8.2点⇒11.2点⇒9点⇒9.4点)。QOLについては投与後1週間後にはまだ上昇していたが、終了時には低下していた(3.0点⇒3.8点⇒4.0点⇒3.6点)。OABSSは投与後1週間後には低下が認められた(5.2点⇒7.8点⇒6.4点⇒7.4点)。なお、投与中投与が原因と考えられる副作用は認められなかった。

【結語】前立腺がんに対する放射線治療中の急性尿路障害に対して牛車腎気丸7.5g/日の投与によって夜間排尿回数の減少、IPSS・QOLの改善傾向が認められた。放射線治療中の急性尿路障害に対する対応方法は漢方薬のみならず、他の薬剤についても、成書などにも書かれておらず、今後症例数を増やした検討や予防投与について更なる研究が望まれよう。